

# 東海大学短期大学 (部) スポーツ大会を振り返って 東海大学福岡短期大学の軌跡

北濱 幹士\*

(受付 2017 年 10 月 7 日)

(受理 2017 年 11 月 25 日)

## Report on Sports Day of Tokai University Junior Colleges

by  
Kanji KITAHAMA\*

### Abstract

The purpose of this report is to review Sports Day of Tokai University Junior Colleges at *Shonan Campus* of Tokai University.

It was started between Tokai University Junior Colleges (*Tokai University Junior College Shizuoka Campus, Takanawa Campus, and Tokai University Junior College of Nursing and Medical Technology*) in 1987. After that, since *Tokai University Fukuoka Junior College* joined in 1990, through various changes of management and organization of each Junior College, it has been annually held.

The purpose of Sports Day is for the students of Tokai University Junior Colleges to exchange friendship in competing in some sports games and to feel membership of Tokai University educational group in gathering at *Shonan Campus*.

This report introduces history of Sports Day and suggests significance of Sports Day in education of Junior College. It also focuses on Fukuoka Junior College (This year was the last time Fukuoka Junior College joined Sports Day).

**Keywords** : Tokai University, Junior College, Sports Day

### 1. はじめに

第 1 回大会東海大学短期大学 (部) スポーツ大会 (以後、短大スポーツ大会) は、1987 年に開始され、2017 年の第 31 回大会に至るまで実施された。学校法人東海大学主催で行われる本短大スポーツ大会は、附属高校生対象に行われる「学園オリンピック」と同様の短期大学生対象のスポーツ大会である。

第 1 回大会 (1987 年度) は、東海大学短期大学部静岡校舎 (以後、静岡校舎)、東海大学短期大学部高輪校舎 (以後、高輪校舎)、そして医療技術短期大学 (以後、医療短大) の 2 短大 3 校舎にて開催された。東海大学福岡短期大学 (以後、福岡短大) は、設立された年度開催の第 4 回大会 (1990 年度) より参加し、それ以後、3 短大 4 校舎にて実施された。なお、2008 年に高輪校舎が東海大学の学部へと改組再編された為、第 23 大会 (2009 年度) 以降は、3 短期大学で開催されている。

31 年間継続されてきた短大スポーツ大会であるが、福岡短大の学生募集停止 (2017 年度) を踏まえ、第 31 回大会 (2017 年度) をもって短大スポーツ大会は終わりを

迎えることとなっている<sup>\*1</sup>。

本稿では、第 19 回大会 (2005 年度) 以来、短大スポーツ大会に携わって来た担当者として、過去の短大スポーツ大会の歴史、及び福岡短大の出場記録等を振り返り、本大会の変遷について報告する。

### 2. 東海大学短期大学 (部) スポーツ大会の歴史

短大スポーツ大会の目的は、以下の通りである。この大会目的は、第 1 回大会より変更する事なく引き継がれている。

「建学の精神」に則り、各短大の代表される学生が一致団結して、スポーツを通じて学生相互の交流・親睦と技術向上を図り、学園の発展に自らが歴史を作る一員である事の意義を学ぶ事を目的とする。

短大スポーツ大会の歴史を振り返るには、第 1 回大会の 1987 年まで遡る必要がある。第 1 回大会は、2 短大 3 校舎間で行われ、綱引き、女子バレーボール、女子バス

ケットボール、女子硬式テニス、女子卓球の5競技が東海大学湘南校舎総合体育館他で実施された。その後、福岡短大の設置以降、3短大4校舎の学生・教職員が年に1度湘南キャンパスに会し、スポーツを通じて交流と親睦をはかるものへと定着した。

東海大学医療技術短期大学20周年記念誌<sup>1)</sup>において、第1回大会の様子が下記のように記載されている。

1987年9月23日、第1回東海大学短期大学(部)スポーツ大会が三短大合同で、湘南校舎総合体育館で実施された。この大会はスポーツを通じて、学生の交流と親睦をはかる目的であるが、各校舎の後援会の熱気あふれる応援にも支えられて、熱戦が展開され、今日まで継続されている。

〈2・1〉 各短期大学の概要

学校法人東海大学の3短大4校舎は、類似した学科こそ設置されていたが、同一名称の学科は存在していない。3短大4校舎の在学学生は、男女比率も異なる他、地域色なども含めると学生の雰囲気やイメージも大きく異なっている。下記にて、各短大・校舎の学校情報を紹介する。なお、各短大・校舎には、付属高校からの進学者が多数在学している事もあり、短大スポーツ大会以前より、先輩・後輩、友人関係が築けている事も多々ある。昨今では、SNSの普及により、1年次生で参加した時より友人関係を維持し、常日頃から情報交換をしている学生も少なくは無い。

①短期大学部(静岡校舎)

所在地：静岡県静岡市葵区宮前101  
 学 科：食物栄養、児童教育  
 沿 革：1952年設置

②短期大学部(高輪校舎)

所在地：東京都港区高輪2-3-23  
 学 科：情報・ネットワーク  
 沿 革：1963年設置、2008年東海大学情報通信学部(4年制学部)に改組再編

③医療技術短期大学

所在地：神奈川県平塚市北金目4-1-2  
 学 科：看護  
 沿 革：1974年設置

④福岡短期大学

所在地：福岡県宗像市田久1-9-1  
 学 科：情報処理、国際文化  
 沿 革：1990年設置、2017年募集停止

〈2・2〉 大会会場、大会日程

本大会は学校法人東海大学の主催であり、付属高校が行っている学園オリンピックの短期大学版の位置付けである。また、本大会は湘南校舎の各施設を借用、各部署のサポートを受けて実施されている<sup>2)</sup>。

大会日程は、第1回から第16回(2002年度)まで1日開催であったが、第17回(2003年度)から第22回(2008年度)の6年に渡り2日間の開催で実施されている。その後、3短大での運営となった第23回大会(2009年度)より、1日開催へと変更されている(資料1参照)<sup>2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28)</sup>。



図1 第21回大会(2007年度)短大スポーツ大会全参加者での集合写真

第20回大会(2006年度)の実施要項を参考に、2日間開催の全体スケジュールを紹介する。まず、1日目午後より開会式、クラブ対抗と校舎対抗(1種目)、その後、大会参加学生・教職員で懇親会をコムスクエアにて実施。2日目は午前よりクラブ対抗と昼食後に校舎対抗(3種目)を行い、14時半より閉会式・表彰式。そして15時に解散である(表1参照)。午後からの開催になる理由としては、静岡校舎と福岡短大が遠方から参加する事にある。静岡校舎からは貸し切りバスで約2時間、福岡短大は飛行機と貸し切りバス(羽田空港～湘南キャンパス)で約3時間半を費やす。ここに集合時間・待ち時間などを加算すると移動に半日は要する。

表1 2日開催の短大スポーツ大会日程表

9月7日	13:00 開会式 13:45 競技開始【クラブ対抗の部⇒校舎対抗の部】 17:30 競技終了 18:30 懇親会開始 20:00 懇親会終了
9月8日	7:30 朝食 8:30 競技開始【クラブ対抗の部⇒校舎対抗の部】 14:00 競技終了・片付け 14:30 閉会式、表彰式 15:00 解散

\*第20回大会実施要項(福岡短大)より

### 〈2・3〉歴代総合優勝校

第1回大会の総合優勝は高輪校舎である。その後、各短大・校舎で総合優勝争いを繰り返している。19回大会以降は、福岡短大の連続優勝が続いている。総合優勝回数は、高輪校舎が5回、静岡校舎が13回、医療短大が2回、福岡短大が12回である（表2、資料1参照）

表2 短大スポーツ大会総合優勝

大会（上段）総合優勝短大・校舎名（下段）			
第1回 高輪校舎	第9回 静岡校舎	第17回 福岡短大	第25回 静岡校舎
第2回 医療短大	第10回 高輪校舎	第18回 静岡・高輪	第26回 福岡短大
第3回 医療短大	第11回 高輪校舎	第19回 福岡短大	第27回 福岡短大
第4回 静岡校舎	第12回 静岡校舎	第20回 福岡短大	第28回 福岡短大
第5回 静岡校舎	第13回 静岡校舎	第21回 福岡短大	第29回 福岡短大
第6回 高輪校舎	第14回 静岡校舎	第22回 福岡短大	第30回 福岡短大
第7回 静岡校舎	第15回 静岡校舎	第23回 福岡短大	第31回 静岡校舎
第8回 静岡校舎	第16回 静岡校舎	第24回 福岡短大	

\*第18回大会は静岡と高輪の2校舎優勝

### 〈2・4〉競技種目の変遷

各短大・校舎のクラブ対抗戦を意識して始まった本大会は、クラブ対抗戦が中心として行われていた（資料1参照）。大会初期より継続して実施されているクラブ対抗種目は、バレーボール（女子）、バスケットボール（女子）<sup>\*3</sup>、バドミントン（女子）、硬式テニス（女子）<sup>\*4</sup>である。その他の種目としては、ボウリング（第4回～第14回）<sup>\*5</sup>、卓球（第1回～第3回、第15回～17回、第19回～第20回）、ソフトボール（第6回～第22回）が行われ、第16回（2002年度）よりフットサルが継続的に実施されている。また、大会当初は女子学生の種目のみが実施されており、男子学生の種目が実施されたのは、第7回大会（1993年度）の男子バレーボールと男子ソフトボールからである。

クラブ対抗種目が度々入れ替わる経緯は、各短大・校舎の男女学生数、或いはクラブ所属学生数等の事情を鑑みて、種目を決定しているからである。大会事前会議の場にて、各短大・校舎の参加男女比数等を踏まえ、競技種目実施の有無を協議していた。また、男女別での競技運営が困難であるが、参加を熱望している学生がいる場合、男女混合にする事によって種目実施の成立を果たしている（ソフトボール：第18回～第22回、バスケットボール：第25回～第29回）。しかし、男女が同じフィールドに立つ危険性も問題視され、実施不可となった種

目もある。多くの選手が必要となるソフトボールは、第18回大会（2004年度）より混合ソフトボールとして実施されていたが、男子学生の打球が非常に危険である事などを理由に実施不可となった。逆に、男女混合であっても、特別ルールを加える事で競技が盛り上がった種目もある。混合バスケットは、コート上に異性が1名以上、そして、女子選手全ての得点に1点を加える<sup>\*6</sup>特別ルールを適応した。これにより、男子学生が得点を重ねたとしても、女子学生の得点により勝負の流れを変える事が可能となった。つまり、女子学生にボールを集めて得点を狙う事で、チームとしての勝利を得る事ができるのである。ルール上では、「コート上に異性が1名以上」であり、どのような男女比率にするのかも各校舎に委ねられており、ただ応援するだけでなく、試合の流れに合わせたチームマネジメントも必要となった。

参加希望者が多数いたとしても、実施場所の問題により実施困難の為に不可になる場合もある。11年間に渡り実施されていたボウリングは、湘南キャンパス北門向かいにあった東友ボウリングセンターにて実施されていた。しかし、当ボウリング場廃業により、ボウリングは種目として成立しなくなった。また、バレーボールの隣で実施していた卓球は総合体育館の入口に移動した後、廃止。そして、附属体育館で実施していたバドミントンは体育館の天井が低く、実施会場としては相応しくない等、問題点は多々存在していた。前例として上げたバドミントンに関しては、総合体育館で実施していた男女バスケットボールが成立しなくなり、バスケットボールは1面で実施する事により、総合体育館内にて実施する事が可能となった。

実施種目が不透明であると学生の大会モチベーションが下がると言う意見が多数あり、第26回大会以降は実施種目を精査するのではなく、実施種目を以下の5種目（バレーボール、バスケットボール、バドミントン、硬式テニス、フットサル）に限定し、この中で実施可能な方法に合わせる事（団体、混合等）が実行委員会で確認されている。つまり、短大スポーツ大会に参加したい学生は、実施5種目のいずれかのクラブに所属し、練習に励む事で参加する道が開かれるのである。また、上記した5種目に限定する事で、実施場所を総合体育館、テニスコート、ラグビー・ハンドボール場の3ヶ所にする事が出来、学生相互の応援だけでなく、教職員の配置にも功を奏している。

第5回大会（1991年度）よりクラブ対抗とは別に校舎対抗が始まり、綱引きが行われた。第15回大会（2001年度）より、百足リレー、スウェーデンリレー（男子）、そしてレクリエーション1と2<sup>\*7</sup>が実施された。その後、校舎対抗においては複数の種目が増えられ、クラブ対抗に参加していない学生も参加可能となった。

第18回大会（2004年度）から継続的に行われていた百足リレー、スウェーデンリレー（女子・男子・混合）

は、諸般の理由により、比較的安全で多数の学生が参加可能なメディシンボールへと変更になった。その結果、第25回大会（2011年度）以降より、校舎対抗は綱引き、大縄跳び、メディシンボールの3種目で争われている。

第30回大会（2016年度）からは、校舎対抗のオープン参加も取り入れている。他短大と比べて参加人数が非常に多い医療短大は、校舎対抗であっても参加者全員が何かしらの種目に出場する事が難しい。従って、校舎の代表チームとは別途に4チームを編成し、オープン参加（得点に加算にならない）として参加している。大勢の学生が参加する事により、総合体育館内が更に盛り上がるようになった。

#### 〈2・5〉懇親会の変遷

各短大・校舎が交流するのはスポーツの場だけに限らない。毎年スポーツ大会期間中に設けられている懇親会では、各短大・校舎の学友会執行委員や体育委員（校舎によって名称の違いあり）、各種目の代表者が一同に介し、顔を合せて様々な情報交換をする事で、円滑な大会運営の一役を担っている。



図2 蟹江大会運営委員長の挨拶から始まった第21回大会（2007年度）の全体懇親会

同じ学園内の短期大学とは言え、他短大・校舎の学生が交流を持つ場は、短大スポーツ大会だけである。従って、所属校舎の学生・教職員以外は、どの短大の誰ともわからず、その他大勢の1人とししか認識できない。そこで、東海大学短期大学のロゴを短大・校舎毎に分けた記念Tシャツを配布・着用している。第20回大会（2006年度）以降は、各短大・校舎ごとにTシャツの色を変えてお互いの所属が一目で理解できるようにしている。また、1日開催になった第23回大会（2009年度）からは、校舎対抗の際に着用するなど、短大毎の団結力を高める1つとして使用されている（図3参照）。

短大スポーツ大会が2日間に渡って開催されていた頃は、1日目の夕食を全体懇親会として位置づけて、全学生・教職員が参加していた。懇親会プログラムの1つには、各短大・校舎の紹介の時間が設けられており、パワーポイントでの紹介だけに終わらず、CPR（心肺蘇生法）

の実演（医療短大）、手遊び唄（静岡校舎）、ショーバスケット（図4参照）やフリースタイルフットボール（福岡短大）などが披露された年もあった。福岡短大では、全体懇親会でのパフォーマンス練習に身が入り過ぎてクラブの練習が疎かになっていた事もあった。

その後、短大スポーツ大会が1日開催に戻ってからも、大会事前準備の前後に担当学生及び教職員の各短大10名程度の代表者が集まり、松前会館やコムスクエアで懇親会を開催している。少ない参加者、そして短い時間ではあるが、各短大の交流が深まるよう実施している。パフォーマンス等は実施していないが、各短大の紹介に続き、自己紹介などを行う他、大会運営を円滑にする為に、競技における諸注意、各種対戦のくじ引きが行われている。



図3 短大スポーツ大会記念Tシャツ  
中心のTシャツは30回記念イラスト入り



図4 第20回大会（2006年度）の懇親会の様子  
（福岡短大バスケットクラブによるショーバスケット）

### 3. 短大スポーツ大会の各種記録

短大スポーツ大会の各種記録に着目しながら、大会の変遷をたどる（資料1参照）。まず、これほどまでに天候に恵まれたスポーツ大会は少ないであろう。毎年、開催日が異なっているにも関わらず（8月中旬～10月中旬）、全31回の内、屋外種目（硬式テニスとソフトボール）が雨天中止になったのは4回のみである（第6、8、9、10回大会）。その内、第8回大会の硬式テニスは中止になっ

ているが、ソフトボールは男子が医療短大、女子は高輪短大が勝利した記録が残っている\*<sup>8</sup>例年、台風の動向が気になる時期ではあるが、幸運にも第10回大会以降の雨天中止はなかった。つまり、第1回から31回を通じて短大スポーツ大会の雨天回避率は、80%を超えていたことになる。

総合優勝回数については先述したが、連続総合優勝記録は、福岡短大が6大会連続（第19回～第22回）で総合優勝を遂げている。次は、5大会連続の静岡校舎（第12回～第16回）と福岡短大（第26回～第30回）である。静岡短大の連勝を止めたのが福岡短大、そして、福岡校舎の連勝を2度に渡って止めたのは静岡校舎である。

校舎対抗は、第5回大会（1991年度）以来第31回大会に渡り27回実施されている綱引きに着目する。福岡短大は、27回中15回綱引きでの優勝を遂げており、その確率は55%と他短大・校舎を大きく引き離れた結果である。20周年記念記録誌にて<sup>29)</sup>、高輪校舎はクラブ対抗では幾つも優勝を勝ち取るが、綱引きでは何故か勝てないとの記載がある。しかし、最後まで高輪校舎が綱引きで勝利する事は無かった。

こちらは記録ではなく記憶であるが、教職員が校舎対抗の選手として参加していた時代もあった（図5参照）。百足リレーの第1グループは、各短大・校舎の教職員グループで競われていた（2008年度頃まで）。その後、教職員の高齢化、及び怪我等の懸念事項により学生のみでの実施となった。



図5 各短大・校舎の教職員から始まる百足競走  
第19回大会（2005年度）より

前述したようにクラブ対抗は、紆余曲折しながら各種目を成立させて実施していたのが実情である。大会史上の連続優勝記録は、静岡校舎の女子バレーボールであり第12回～18回大会の7連勝である。2校舎優勝を含めると、静岡校舎の女子フットサルが第16回～22回大会にて（第19回大会は高輪校舎との2校優勝）7連勝を達成している。次点は、高輪校舎の女子バスケットボールと（第1回～6回大会）、男子バスケットボール（第12回～17回大会）、そして静岡校舎の女子バスケットボール

（第13回～19回大会：第18回大会はバスケットボールが未実施）の6連勝である。種目単位で見ると、医療短大は混合バスケットボールで5連勝した後に、女子バスケットボールにおいても勝利している。

#### 4. 福岡短大と短大スポーツ大会

福岡短大は、第4回大会より第31回に至るまで参加している（表4参照）。毎年開催される短大スポーツ大会に出場する事を楽しみにして、各クラブの練習に励んでいる学生も少なくはない。また、短大スポーツ大会だけでなく、湘南校舎までの旅程、そして最終日の自由時間を楽しみに参加している学生も多数いる。

福岡短大の参加学生数は、第26回大会（2012年度）の22名が最少で、最多は第22回と23回大会（2008年・2009年度）の54名である。この2年間は、参加教職員・学生全員が羽田空港から湘南キャンパスまでの移動バスに乗車する事ができず、バスと電車とに分かれて移動した。

福岡短大の男子学生の参加人数は、第15回大会（2001年度）まで一桁に留まっている。また、第9回大会（1995年度）では、男子学生の参加は見られない。その各年代においても、バレーボール、バスケットボール、ソフトボールなどの男子種目は、当時、男子学生の参加が少なく、不参加となっていた。第17回大会（2003年度）以降は、参加学生数が増えると共に総合成績、各種目においても好成績が収められるようになってきている事がわかる（表4参照）。第25回大会（2011年度）からは、参加学生の減少が見受けられるが、これは本学全体の学生数減少と比例していると示唆できる。

クラブ対抗で圧倒的な強さを誇っているのが、女子バドミントンである。その理由としては、団体戦とは言え、基本的には個人競技であり（シングルス、ダブルス）、バドミントン経験者が入学すれば、在籍中の2年間は強さが維持できる。事実、隣接している東海大学附属第五高等学校バドミントン部（強化指定クラブ）から進学者がいた事もその理由である。とは言え、その人数は5名であり、偶然にもバドミントン経験者が多数入学していたとも言える。



図6 福岡短大6連覇達成（第24回大会：2010年度）

表4 福岡短大の参加人数, 総合成績, クラブ成績

大会 (年度)	参加人数 (男子・女子)	総合 成績	クラブ対抗の部 優勝クラブ
第4回 (1990)	26名 (3名:23名)	4位	
第5回 (1991)	30名 (2名:28名)	3位	女子バドミントン
第6回 (1992)	39名 (2名:37名)	4位	
第7回 (1993)	39名 (2名:37名)	4位	女子バドミントン
第8回 (1994)	36名 (1名:35名)	2位	女子バレーボール
第9回 (1995)	36名 (0名:36名)	4位	
第10回 (1996)	34名 (4名:30名)	4位	
第11回 (1997)	34名 (4名:30名)	2位	女子バレーボール ボウリング
第12回 (1998)	34名 (2名:32名)	4位	
第13回 (1999)	34名 (4名:30名)	2位	女子バドミントン ボウリング
第14回 (2000)	29名 (4名:25名)	3位	ボウリング
第15回 (2001)	32名 (5名:27名)	3位	
第16回 (2002)	24名 (14名:10名)	3位	
第17回 (2003)	39名 (13名:26名)	優勝	
第18回 (2004)	40名 (12名:28名)	3位	
第19回 (2005)	49名 (20名:29名)	優勝	女子バレーボール 男子バスケットボール 女子バドミントン 男子フットサル
第20回 (2006)	50名 (19名:31名)	優勝	女子バレーボール 女子バスケットボール 男子バスケットボール 女子バドミントン 男子バドミントン 女子硬式テニス
第21回 (2007)	45名 (22名:23名)	優勝	女子バスケットボール 女子バドミントン
第22回 (2008)	54名 (27名:27名)	優勝	女子バスケットボール 女子バドミントン 男子硬式テニス 混合ソフトボール
第23回 (2009)	54名 (27名:27名)	優勝	女子バドミントン 男子フットサル
第24回 (2010)	47名 (20名:27名)	優勝	女子バレーボール 男子バスケットボール 団体硬式テニス 男子フットサル
第25回 (2011)	26名 (11名:15名)	2位	女子バドミントン 女子硬式テニス 男子フットサル
第26回 (2012)	22名 (10名:12名)	優勝	女子バドミントン
第27回 (2013)	33名 (15名:18名)	優勝	女子バレーボール
第28回 (2014)	30名 (8名:23名)	優勝	女子バドミントン
第29回 (2015)	33名 (12名:21名)	優勝	団体バドミントン
第30回 (2016)	34名 (12名:22名)	優勝	団体バドミントン 団体硬式テニス 男子フットサル
第31回 (2017)	29名 (17名:12名)	2位	女子バドミントン 団体硬式テニス

福岡短大にとって本スポーツ大会は、学生・教職員における夏の一大行事である。新入学生の宿泊研修が廃止されてからは、唯一宿泊を伴う課外行事でもある。大会開催日そのものが1日であっても2日であっても、湘南キャンパスまでの移動距離が長い為、2泊3日の行程を用いている。つまり、約半日の移動時間を要し、1日目は移動日、2日目が大会日、3日目が移動日の行程が恒例となっている。先述した2日開催の際には、湘南キャンパス到着後に開会式、その後、クラブ対抗戦と校舎対抗、そして全体懇親会と身体的にも厳しいスケジュールであった。

福岡短大として初めて参加した第4回大会は、往路に新幹線を、復路には夜行列車を乗り継いで参加した記録が残されている<sup>2)</sup>(表5参照)。下記の行程は、第4回大会のみであり、第5回大会から飛行機を使用し、羽田空港経由(東海大学のバス或いは公共交通機関)にて湘南キャンパスへの移動が運用されている。

表5 福岡短大 第4回短大スポーツ大会行程表

10月13日(土)	8:30 9:04 15:24	小倉駅集合 小倉発～小田原行(名古屋乗換) 小田原発～鶴巻温泉行(16:20着) 東海大学湘南校舎
10月14日(日)	9:30 10:00 16:00 16:30 18:00 19:00 19:27	開会式 試合 閉会式 横浜駅へ移動 自由行動 横浜駅集合 横浜発～黒崎行(あさかぜ1号)
10月15日(月)	10:07 10:17	黒崎着 黒崎発～赤間行(10:37着) 東海大学福岡短期大学

福岡短大の大会参加には宿泊が必須である。この宿泊場所について調査した所、初めて参加した第4回から第10回までの宿泊先は「東海大学医療技術短期大学女子学塾(女子学生)」と「松前会館(男子学生, 引率教員)」と記されている。その後は、東海大学湘南クラブハウス(第11回:1997年度), 14号館(第12回:1998年度～第16回:2002年度), 1号館(第17回:2003年度～第21回:2007年度), 6号館(第22回:2008年度～第25回:2011年度<sup>9)</sup>), 6号館改修工事の為、再度1号館(第26回:2012年度)に戻り、第27回(2013年度)以降は6号館に宿泊している。この様に、大学生になっても、日頃から練習している学科の枠を超えた仲間達と一緒に神奈川まで移動し、教室に宿泊し、他短大・校舎の学生も交えながら夜中まで交流を深める事<sup>10)</sup>などが、短大スポーツ大会におけるもう一つの楽しみのように見受けられる。

## 5. おわりに

本短大スポーツ大会の歴史、記録などを振り返る上で、多くの人たちに支えられて継続してきた大会である事を改めて確信する事ができた。各短大・校舎において本大会の位置付けは異なるであろうが、学校法人東海大学傘下の短期大学で学ぶ学生諸君が湘南校舎に毎年集い、スポーツを通じて交流をする事は非常に重要かつ大切な事であると考え。その重要な役割を担っていたのが本短大スポーツ大会であった。これは、年に1度の短大スポーツ大会を楽しみにしている多くの参加学生だけでなく、企画・運営に携わっている教職員にも同様に言える事だと思われる。

東海大学短期大学（部）スポーツ大会としては、今年度の第31回大会を以って終焉を迎える事となった。今後は、例えば、東海大学短期大学（部）交流大会として、静岡校舎と医療短大の切磋琢磨したスポーツ大会、そして学生同士の交流を応援したい。

## 6. 謝辞

第1回大会から第31回大会の間に参加して頂いた学生諸君、短大卒業後も練習に来てくれた諸先輩方、応援に来て頂いた多くのOB・OG、本大会に携わって頂いた短大教職員の皆様、また、施設借用等で全面的にサポートして頂いた湘南校舎の皆様、全ての皆様の温かい気持ちと応援により31年間に渡って本大会を継続する事ができた事を心より感謝したい。

### 引用文献

- 1) 東海大学医療技術短期大学20周年記念誌, pp.30-31 (1994)
- 2) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 1990年度・1991年度 pp.97-102
- 3) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 1992年度 pp.114-116
- 4) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 1993年度 pp.109-111
- 5) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 1994年度 pp.99-101
- 6) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 1995年度 pp.88-90
- 7) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 1996年度 pp.87-89
- 8) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 1997年度 pp.89-91
- 9) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 1998年度 pp.105-108
- 10) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 (創立10周年記念) 1999年度 pp.63-65
- 11) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2000年度 pp.56-57
- 12) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2001年度 pp.56-57
- 13) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2002年度 pp.62-64
- 14) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2003年度 pp.69-71
- 15) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2004年度 pp.73-75
- 16) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2005年度 pp.67-69
- 17) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2006年度 pp.72-75
- 18) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 (自己点検・評価報告書) 2007年度 pp.82-84
- 19) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2008年度 pp.84-86  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2008/ftokai\\_AnnualReportOnEducationsAndResearches\\_2008.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2008/ftokai_AnnualReportOnEducationsAndResearches_2008.pdf) (2017.9.6 閲覧確認)
- 20) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2009年度 pp.83-85  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2009/ftokai\\_AnnualReportOnEducationsAndResearches\\_2009.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2009/ftokai_AnnualReportOnEducationsAndResearches_2009.pdf) (2017.9.6 閲覧確認)

- 21) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2010年度, V. 学生支援 pp.87-90  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2010/2010-05.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2010/2010-05.pdf) (2017.9.6 閲覧確認)
- 22) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2011年度, IV. 学生支援 pp.87-90  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2011/2011-04.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2011/2011-04.pdf) (2017.9.6 閲覧確認)
- 23) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2012年度, IV. 学生支援 pp.67-69  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2012/2012-04.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2012/2012-04.pdf) (2017.9.6 閲覧確認)
- 24) 東海大学福岡短期大学教育研究年報 2013年度, IV. 学生支援 pp.67-69  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2013/2013-04.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2013/2013-04.pdf) (2017.9.6 閲覧確認)
- 25) 第28回東海大学短期大学（部）スポーツ大会実施要項
- 26) 第29回東海大学短期大学（部）スポーツ大会実施要項
- 27) 第30回東海大学短期大学（部）スポーツ大会実施要項
- 28) 第31回東海大学短期大学（部）スポーツ大会実施要項
- 29) 東海大学短期大学（部）スポーツ大会20周年記念記録誌, p.6 (2006)

### 注

- \*1 2短大（短期大学部（静岡）と医療技術短期大学）での大会維持（交流戦として）は継続審議中である。
- \*2 第10回（1996年度）に限り、大会会場が秦野市総合体育館となっている。
- \*3 第25回（2011年度）から5年間は男女混合での実施
- \*4 第24回（2010年度）、第29回（2015年度）～第31回（2017年度）は団体とし男女混合での実施
- \*5 福岡短大では校友会執行委員が参加
- \*6 2ポイントシュートには1点加算して3点、3ポイントシュートは4点、フリースローも1点に加算して2点となる。
- \*7 レクリエーション1, 2: 種目内容は共に不明
- \*8 大会当日が晴天だとしても、水捌け具合によってテニスコートの使用不可能となる場合がある。
- \*9 第24回（2010年度）は、女子学生のみ留学生寮へ宿泊
- \*10 大会が2日間に渡って開催されていた年代は、高輪校舎、静岡校舎、福岡短大の2短大3校舎が同じ号館を宿泊場所としていた。

